第一中

主体的・対話的で深い学びを実現する生徒の育成

～言語活動の充実を図る工夫を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　佐々木　敏文

１　研究主題について

昨年度の研究の成果として、次のようなことが挙げられる。

○学び合いや話合い活動の場面を取り入れることで、自ら学ぶ姿勢を育成したり、自分の考えを深めさせたりすることができている。

○振り返りの時間を設けることで、生徒の学習目標への到達状況を把握したり、また、生徒に自らの進歩や課題に気付かせたりすることができている。

○ジョイントスクール全体会を行うことはできていなかったが、共通事項を確認し、「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」に取り組むことができている。

研究の課題として、次のようなことが挙げられる。

●１人１台端末をペア・グループ活動に効果的に活用し、それを「深い学びを実現する生徒の育成」につなげていきたい。

●生徒が自ら課題を探究し、自分の言葉で表現する力を高める課題設定を工夫していきたい。更に、生徒が自分の変容を感じられる振り返りや評価の在り方を探っていきたい。

●言語活動充実のために、１人１台端末を活用して互いの意見を交換できる学習形態の工夫を行っていきたい。そして、それを対話的な学びの高まりにつなげたい。

一昨年度より設定した研究主題のもと、「主体的・対話的で深い学び」、「言語活動の充実」を目指しての取組を実践してきた。成果も見出せているが、各教科、領域とも２年間の取組から、実践方法に改善や研究継続が必要であると認識している。八戸市の学校教育指導の方針と重点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に一層迫っていくために、今年度も昨年度の研究主題を継続することとした。

身に付けた知識を関連付けながら、より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、「深い学びを実現する生徒の育成」につなげていきたい。

２　研究のねらい

言語活動の充実を図りながら、「まとめ振り返る学習」、「協働して課題を解決する学習」を設定し、その実践を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現することにつながることを明確にする。

３　研究仮説

１人１台端末を活用し、情報収集したものをまとめる活動や互いの意見交換により、コミュニケーション力を高めるような言語活動を充実させることで、物事を多面的・多角的に捉えることができ、深い学びにつなげることができる。

４　研究内容

⑴ １人１台端末を活用し、学習したことをまとめたり振り返ったりすることで、次の学習につなげていく工夫をする。

⑵ 生徒同士の協働により、問題解決をする場面の設定を工夫する。

⑶ 知識を相互に関連付けて、理解を深める課題設定の工夫をする。

５　研究の経過

⑴ 研究仮設に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
６	１～３０	授業参観月間①　研究仮設に関わる視点をまとめた「授業参観シート」をもとに授業を参観した。
８	２２	第1回授業研究（授業参観月間をもとにした話合い） 「授業参観シート」をもとに協議と発表を行った。
１１	１	第2回授業研究（要請訪問）保健体育科研究授業（校内研修⑦） １学年　授業者　阿部隆大　　題材名　球技　バドミントン 助言者　八戸市総合教育センター　石井利正先生 導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけの工夫（発問・しかけ）、１人１台端末を活用する工夫についてを視点とした授業研究を行った。
１１	４～３０	授業参観月間②　６月と同じ内容で授業を参観した。
１	１１	第3回授業研究（授業参観月間をもとにした話合い） 「授業参観シート」をもとに再度協議と発表を行った。

⑵　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
４	４	校内研修①研究主題と研修計画について 研究主題と研究計画について共通理解を図った。また、「観点別評価」と「学習の手引き：学習の仕方」について確認や検討を各教科で行った。
４	５	校内研修②教科ごとの経営方針と年間計画作成について
５	２５	校内研修③一般研修「指導と評価の一体化（総論、各教科）学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）の育成について」講師　八戸市教育委員会　日向端聖先生
７	２９	校内研修④学習指導案作成について・研究の進め方 校内研修とのかかわりを意識した学習指導案の作成についての確認を行った。
８	９	校内研修⑤一般研修「１人１台端末の活用（Jamboard の授業活用）」 講師　八戸市総合教育センター　石井一二三先生
８	１９	JS 研修会　講演「義務教育９年間をつなぐ学校版スクリーニングについて」 講師　八戸市スクールソーシャルワーカー　髙野康一氏
８	２２	校内研修⑥各教科で行った NRT 分析の共通理解
１	１１	校内研修⑧今年度の振り返りと来年度の校内研修主題について
１	２５	校内研修⑨全体会・領域部会・教科部会

６　研究の成果

⑴　１人１台端末を活用する研修を通して、調べるだけでなく、「まとめ振り返る学習」や友達と話し合って意見交流するなどの学習方法を知り、工夫することができた。「深い学びを実現する生徒の育成」をする手だてについて授業を行う際に試行錯誤することができた。

⑵　学び合いや話合い活動の場面を多く取り入れることで、生徒同士が「協働して課題を解決する学習」を取り入れ、コミュニケーション能力を高めることができた。

⑶　「生徒の主体性」について意識し、生徒の主体性を高めるにはどのような授業の流れが大切なのか、教師の「しかけ」について工夫した授業を行うことができた。

７　研究の課題

⑴　ＪＳ研修会で各校の課題として挙げられた、「個々の思考や小集団での話合い活動では活発に意見交換できるが、集団の場で発表できる力が不足している」という点である。集団が大きくなるにつれてその傾向が強まるため、発表のルール作りや話し方のスキル、考えを表現するための語彙力などの「言語活動の充実を図る工夫」に、更に力を入れていきたい。

⑵　生徒の主体性を高めることを意識した授業を研究し、生徒が自ら課題を探究し、自分の言葉で表現する力を高める課題設定を工夫していきたい。

（記入者　蛭田美奈子）